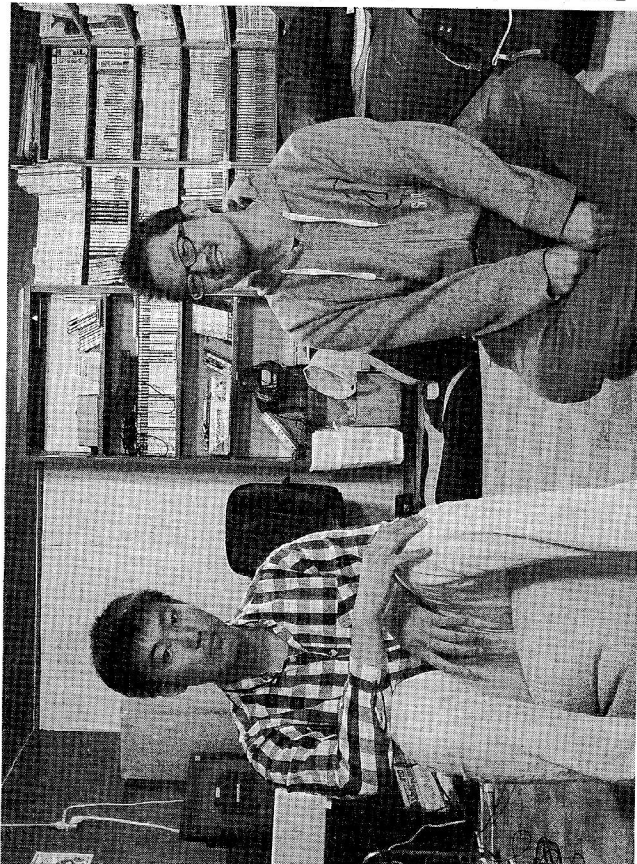




教育に関する情報、意見をお寄せください
TEL138-43-2121 FAX0138-43-3131



フリースペースで笑顔を見せる庄司代表(右)らすまいるのスタッフ

フリースクールすまいる

「地域に安心感を」

不登校の児童、生徒を支援している「函館圏フリースクールすまいる」(庄司代表)が、今年で開設5年目を迎えた。フリースペースの学習支援の本柱で活動を続けているが、利用の仕方に変化も生まれ始めている。庄司代表は「子どもが自立した大人になる準備は、地域がすぐきょう。子どもや保護者が安心して過ごせる場所でありたい」と話している。(船橋優香)

すまいるは2012年4月、七飯町のフリースペースに拠っていたが、「フリースペースが地域」となっていた函館の保護者の希望を受け、地域交流まちづくりセンターに開設。翌年、現在の大手町9に移転した。フリースペースは月々木曜の午前10時~午後3時。今年4月からは月曜日を「イベント」の日とし、花見や図書館に行くなどのイベントを行っている。庄司代表は「自由に行動していい」と言っても、戸惑いもある。異年齢やスタッフとの交流を促し、すまいるでの過ごし方をテーマにした講座も行っている。すまいるは「すまいる併用」と

す。火・水曜はオープンスペースとして本おがムスタックのおしゃべりなど思い思いに活動できる。対象は小学生~高校生年代で、利用料は1日1000円、半日500円。学習支援はこれまでも行っていたが、昨年度から本腰を入れており、利用希望者が増加傾向にある。面談を経て、本人や保護者のニーズに合わせた支援を庄司代表やボランティアスタッフが行う。現在は月々金曜の午前10時~午後5時で、1回の利用料は1時間2500円。「訪問での学習支援も行っているのでも、登校復帰しながら支援を受け続ける『すまいる併用』とい

レクや自由に活動 ■ ニーズに合わせて学習

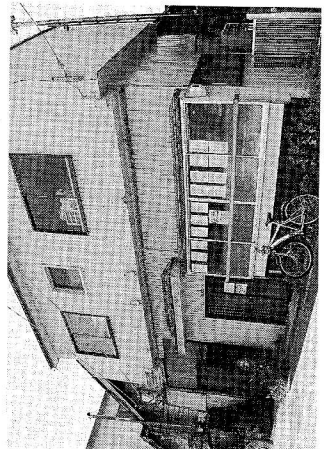
利用の仕方も最近増えた(庄司代表)。小学校~高校では、授業録書きやフリースクールの利用を出席扱い・評価の対象にできるため、保護者を通じて学校側と協議した上で「週1日をすまいるに行く日」と決め、他の曜日は登校している(すまいる)という。

親の支援も

すまいるの相談部門「不登校相談情報センター」によると、昨年度の相談件数は前年度比8件の244件。対象者の年齢別になると、中学生が96件、18歳以上が51件、高校生年代が41件、小学生が27件。センターで相談に乗る野村俊幸副代表は「中学、高校は受験があるので保護者の不安が大きい。だが、親が無理に学校に行かせようとする、子どもと親のゆとりがなくなる」と指摘。庄司代表は「子どもと保護者の両方の支援が必要。すまいるではその体制が構築できている」と強調する。

5年の節目を迎え、庄司代表は「函館は『地域子育てを』という考えが色濃く、一人の子どもを社会で自立した大人に導いていく選択肢の一つとして、今後もあり続けたい」と話している。

問い合わせは不登校相談情報センター(南北海道)090-62601-6998(4)、すまいる(0800-4346-6469)へ。



大手町にあるすまいる。2013年に現在の場所に移転した